

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第1集

椀 貸 塚

2006年9月

まんのう町教育委員会

例　　言

1. 本書は、琴南町教育委員会が実施した、まんのう町内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 今回の遺跡発掘調査は、香川県仲多度郡まんのう町造山581に所在する桜貸塚を対象とした。
3. 発掘調査は琴南町教育委員会が行い、同主事加納裕之が担当し、同臨時職員中村文枝、測量補助員武井美和・海邊麻理子がこれを補助した。
4. 遺構実測は中村・武井・海邊・加納が行った。遺構・遺物の写真撮影、遺物実測、遺物の浄書、報告書の執筆・編集は加納が行った。遺構の浄書、図面のレイアウトは中村が行った。
5. 本書の実測図の縮尺はすべてスケールで表示した。また図中の方位・座標は図上座標第IV系（世界測地系）による。標高はT. P.（東京湾平均海面）からのプラス値である。座標・標高の記載はすべてm単位である。
6. 出土遺物・写真・図面等の調査成果物はまんのう町教育委員会にて保管している。
7. 採図の一部に国土地理院発行5千分の1国土基本図を複製した琴南町全図（承認番号四複第238号）と国土地理院発行5万分の1地形図を複製したまんのう町全図（承認番号平17四複第86号）及び、国土地理院発行2万5千分の1地形図「内田」を一部改変して使用した。
8. 調査の実施から本書の執筆に至るまでは、以下の方々や諸機関のご指導・ご協力を頂きました。記してお礼申し上げます。
奥山則国・香川県教育委員会・海邊博史・片桐孝浩・谷本憲一・信里芳紀・松田朝巾・森下英治（敬称略・五十音順）

目 次

1. 遺跡の環境 ······	(1)
(1) 遺跡の立地 (2) 歴史的環境	
2. 調査の経過 ······	(3)
(1) 調査の経緯 (2) 調査の経過	
3. 調査の結果 ······	(3)
(1) 墳丘部 (2) 出土遺物	
4. まとめ ······	(8)

挿 図 目 次

第1図 まんのう町位置図	第4図 梶貸塚墳丘測量図・礫検出状況平面図
第2図 周辺の遺跡位溝図	第5図 墳丘内トレンチ土層断面図
第3図 梶貸塚周辺地形図・トレンチ配置図	第6図 出上遺物実測図

写 真 図 版 目 次

図版1. A) 梶貸塚遠景 (東より)	C) 梶貸塚遠景 (北より)
B) 梶貸塚遠景 (南東より)	
図版2. A) 第1トレンチ礫検出状況 (北より)	C) 第1・2トレンチ礫検出状況 (南より)
B) 第2トレンチ礫検出状況 (西より)	
図版3. A) 第1トレンチ上層断面 (北西より)	C) 第1トレンチ北端土層断面 (北西より)
B) 第2トレンチ土層断面 (北東より)	
図版4. A) 第1トレンチ南端土層断面 (南西より)	C) 五輪塔水輸出土状況 (南西より)
B) 石塔部材出土状況 (南西より)	
図版5. A) 梶貸塚出土遺物 外面	C) 梶貸塚上に残る五輪塔群 (北西より)
B) 梶貸塚出土遺物 内面	

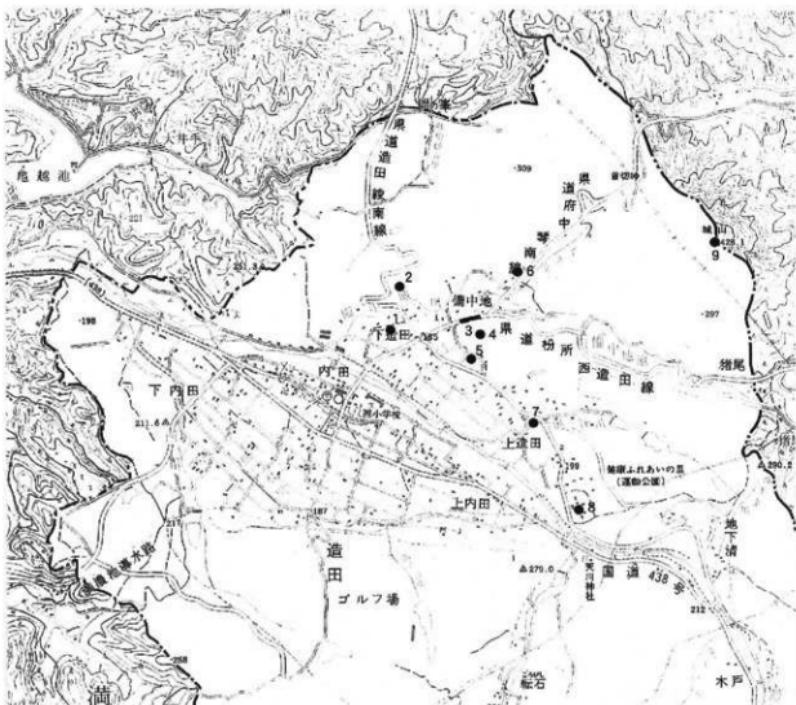
1. 遺跡の環境

(1) 遺跡の立地

まんのう町は、香川県仲多度郡の3町（満濃町、琴南町、仲南町）が、平成18年3月20日に合併して誕生した新町である。香川県南西部に位置し、面積は約194.17km²になる。西の山間部には町名の由来にもなっている日本一の灌漑用ため池、「満濃池」をはじめ、約500ものため池が点在している。



第1図 まんのう町位置図



- 1 桧賀塚 2 城山遺跡・備中地城跡 3 備中地遺跡 4 麦山遺跡 5 木下遺跡
6 備中地遺跡(S28土器出土地点) 7 森本塚古墳(消滅) 8 靈仙寺跡 9 造田城跡

第2図 周辺の遺跡位置図

町の南側には標高1,000mを超える竜王山、大川山を主峰とする讃岐山脈が連なり、そのふもとを県下で唯一の一級河川土器川が流れている。

椀貸塚はまんのう町南東の旧琴南町の地区に所在する。琴南地区は、ほぼ中央を土器川が縦断しており、土器川沿いの盆地の他は一部山間部の平坦地を含む山岳地帯と峡谷からなる地域である。琴南地区は企見羅から阿波へ抜ける街道の国境の村として、通婚圈、商業圏などにおいて徳島県側との関係が深い地域である。

椀貸塚は大字造山に所在する。造田は江戸時代から昭和31年までの村名であり、その後造田村・美合村が合併し琴南村が誕生し、町制施行を以て琴南町となり、更なる合併によりまんのう町となった現在まで大字名として受け継がれてきた。造田は土器川の洪水によってできた氾濫原に開けた地区であり、今でも各所に上器側の氾濫を防ぐための石積の堤防や、川原を開拓した際に不必要となった石を積み上げた石塚が残されている。造田の由来は川原に田を作ったためという説と、沢の田から起つた名という説があり、椀貸塚が所在する土器川周辺は開墾が進むまで川原であったと考えられる。

(2) 歴史的環境

IH琴南町内で現在のところ確認されている最古の遺物は、後述する古代山岳寺院中守廃寺跡の下層より確認したIH石器時代と考えられる石器である。縄文時代の遺跡では備中地遺跡において早期の押型文土器を確認している。弥生時代の遺跡では備中地遺跡において後期の遺物を確認している他、庵山遺跡において大型始刃石斧が採集されている。古代の遺跡としては大川山において四国最大規模を誇る山岳寺院である中守廃寺跡を確認している。中世から近世にかけての城館としては造田城跡・中通山城跡など確認している。椀貸塚の城山丘陵の先端には中世城館である備中地城が所在し、近隣の水田には「大屋敷」「内屋敷」「中屋敷」「隠居地」「門屋」などの城館に關連した通称地名が残る。また中世～近世の集落跡として木下遺跡がある。木下遺跡は今回調査を行った椀貸塚と時代・位置が近接し、また遺跡内に積石塚が一基所在していることから椀貸塚と関係が深いと考えられる。(※1)

※1 木下遺跡は平成6年11月1日～4日にわたり、琴南町教育委員会が香川県教育委員会文化行政課の指導を得て、団体営土地改良事業に伴う事前調査を実施した遺跡である。調査の結果、15世紀頃の建物跡・溝跡を確認した。また、対象地内には塚が1基所在し、五輪塔部材が積み石マウンド上に配置されていた。調査の結果、塚は南北に長い長方形状を呈し、周辺の地山に含まれる砂岩亜角礫を高さ1mほど積み上げ、上面に五輪塔を配している。測量の結果、塚の中心付近に五輪塔の地輪が位置することから原位置をとどめているものと推定された。

(香川県埋蔵文化財調査センター森下英治氏のご教示による。)

2. 調査の経過

(1) 調査の経緯

今回調査を行った「椀貸塚」は香川県仲多度郡まんのう町造田581に所在する塚で、香川県遺跡台帳に登録された周知の遺跡であったが、今回塚の周辺一帯で県営中山間地域総合整備事業(中讃南部地区) 城山ほ場整備が実施されるに伴い、塚の範囲・内容の確認を目的に埋蔵文化財調査を行った。

まず、平成17年11月16日～平成17年11月18日の3日間香川県教育委員会文化行政課により事業対象地全域の試掘調査が行われた。その結果、塚周間に設定したトレンチにより椀貸塚周囲を巡ると考えられる溝SD01を確認した(第3図参照)。SD01は水田により削平されているものの、約10cm～約40cmの深度を測り、遺存状況は良好である。出土物は土師質土器の小片のみで現時点での詳細な時期決定はできないが、SD01は塚との位置関係より椀貸塚の周溝と考えられる。これらの調査により塚は本来の形状から削平を受けていることを確認した。また、塚周辺のトレンチではSD01以外にも土師質土器が出土した柱穴や土坑が多く所在することから、周溝の外側にも中世の集落跡である「追田遺跡」が広がることが確認された。

(2) 調査の経過

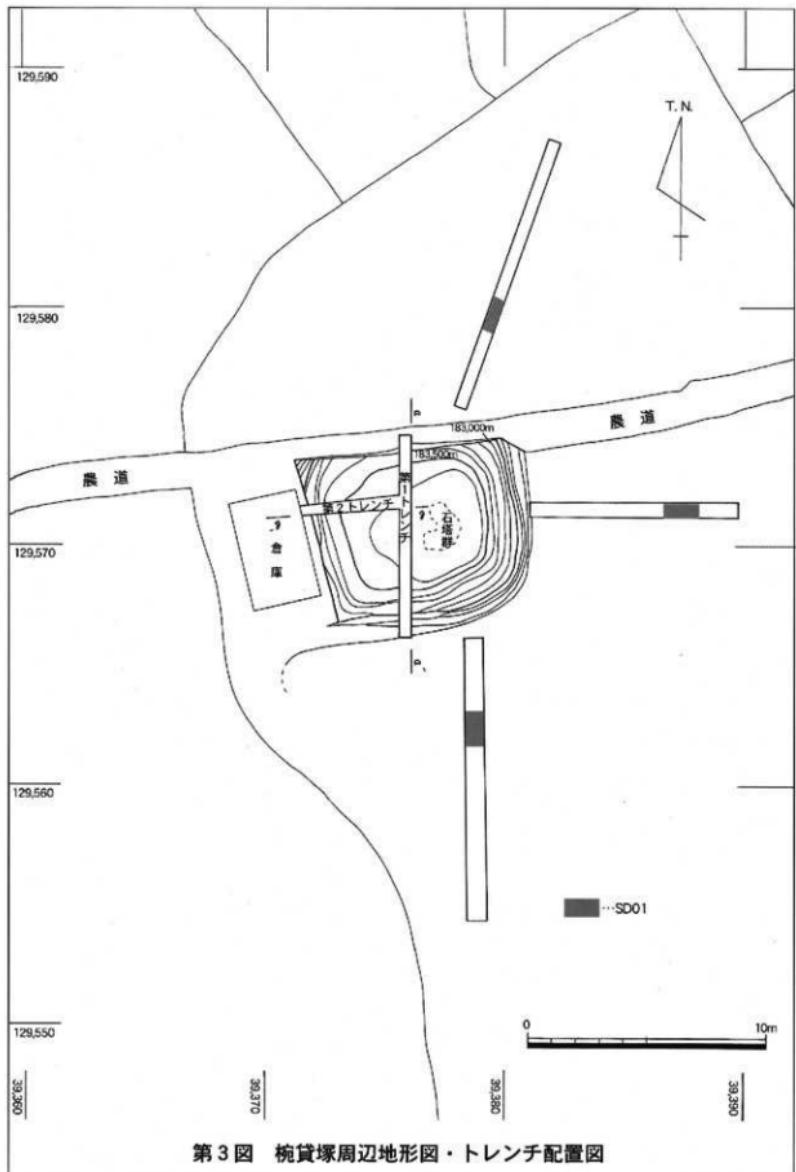
既存の調査成果を受けて、周知の埋蔵文化財包蔵地「椀貸塚」「追田遺跡」について文化財保護法に基づく保護措置が必要とされた。その結果、当包蔵地は事業対象地から除外され遺跡は現状で保存されることとなった。しかし、塚の形状の名残を残す周辺の地割りが当事業において大幅に変更されることや、琴南町内に唯一現存する塚として重要な意義を持つ遺跡であることを考慮し、琴南町内遺跡発掘調査事業として、塚墳丘部の内容確認調査を実施することとなった。

確認調査は平成18年2月2日～平成18年2月13日の期間で実施した。まず、塚と付近の地形測量を行い、東西方向・南北方向にそれぞれ2本のトレンチを設定して、塚の内容把握に努めた。結果、表土下で小礫群(6層)が集中して出土した。小礫群の検出状況平面図を作成した後、全体を掘り下げ、下位で若干大ぶりな礫群(7層)を検出した。その後確認面までの土層断面図を作成し、必要な記録作成を実施した後、トレンチを埋め戻し調査を終了した。

3. 調査の結果

(1) 墳丘

現状の塚墳丘の平面形は南北約7m東西約9mの隅丸長方形を呈する。椀貸塚の上面には凝灰岩製の五輪塔などの石造物が集積されている。五輪塔は鎌倉時代末～室町時代の所産と考えられ、石材としては周辺地域産の凝灰岩を用いている。(大川広域行政組合 松田朝由氏のご教示による。)



第3図 梶貸塚周辺地形図・トレンチ配置図

塚の東・南側には水田が造成されており、塚南側の水田との境界には石垣が築かれている。対して塚の東側はなだらかな斜面を成しているが、以前の調査で確認された周溝が斜面下端から離れた位置していることから、塚本来の形状より削平されていると考えられる。

塚の北側には幅約1mの農道が造成されており、塚と農道との境界に石垣が築かれている。

塚の西側には近代に納屋が建築された際、塚の上面から約50cm削平されており、塚と納屋の境界に石垣が築かれている。納屋の西側は地盤が約1m低くなる。また、塚の周辺の地割が塚付近で突出しており、塚本来の形状の名残である可能性がある。

塚の本来の形状は、塚周囲のトレンチで確認された周溝SD01及び墳丘の形状を残す塚の西側の地割より東西幅約20m、南北幅約16mとなる。

墳丘に設定したトレンチの土層断面図第5図によると、地表面から約5~20cmの腐植土があり、その下位に約10cmの花崗土がある。花崗土は石塔群周辺で確認している。近隣の住民より近代に大幅な整地が行われたことを確認しているため、花崗土は墳丘上面が整地された際に充填されたものと考えられる。腐植土ないし花崗土の下位は礫層となる。礫層は周辺の地山に含まれる砂岩等角礫を塚構築以前の旧耕作土面から約1m積み上げて造成されている。礫層の上半6層では直径8~4cmを中心とする小ぶりな石が詰まれており、積石の下半7層では直径20~10cmを中心とする大ぶりな石が詰まっていた。石の隙間に土は充填されておらず、また石積の積み方にはこれといった規則性は認められなかった。礫層の下位は旧耕作土と考えられる8・9層に至る。

塚の東・西・南側の石垣は近代に周囲の水田・農道・小屋が造成された際に墳丘の崩落を防ぐために築かれたものと思われるが、石垣と6・7層の前後関係は礫の崩落が著しくいため確認できなかった。

(2) 周溝

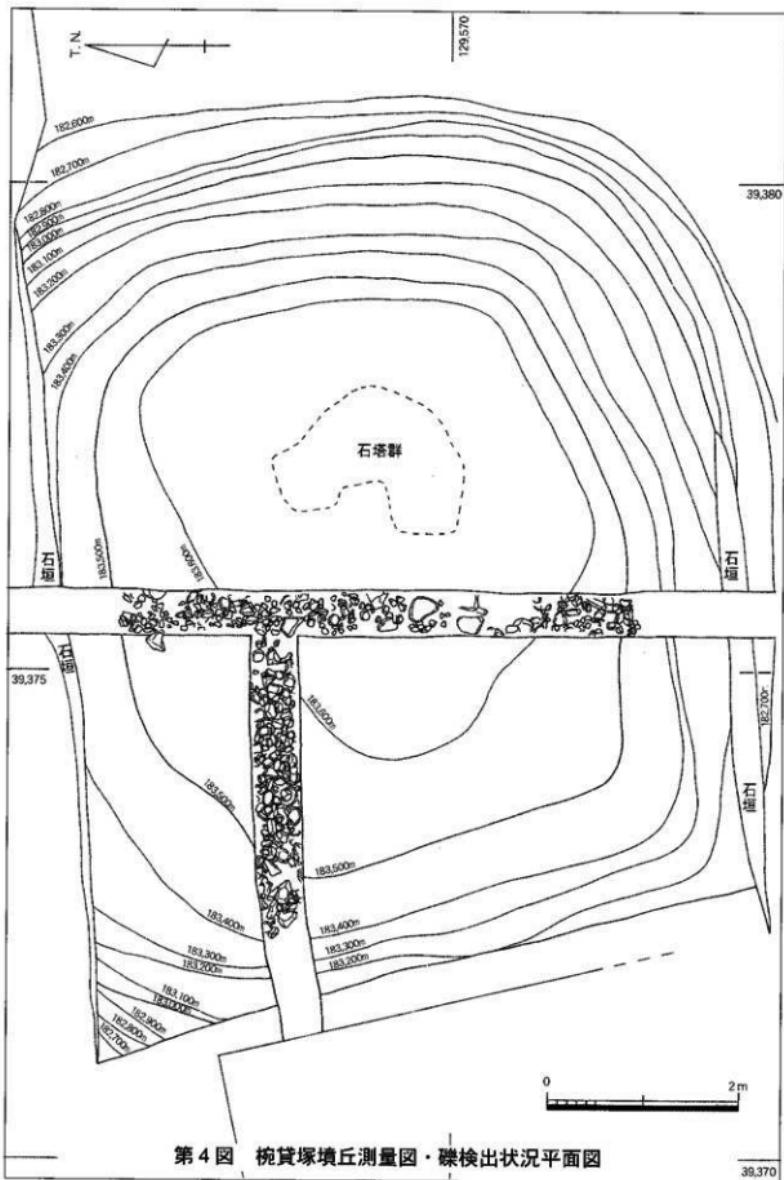
香川県教育委員会文化行政課が実施した調査により、周溝と考えられる溝状造構SD01を塚の北側・東側・南側に設定したトレンチにおいて確認している。塚の東側・南側のトレンチにおいては約10cmの残存深度を測るに過ぎないが、塚の北側のトレンチにおいては約40cmの残存深度を測る。周溝からの出土遺物は土師器の小片のみであり、現時点での詳細な時期決定はできない。

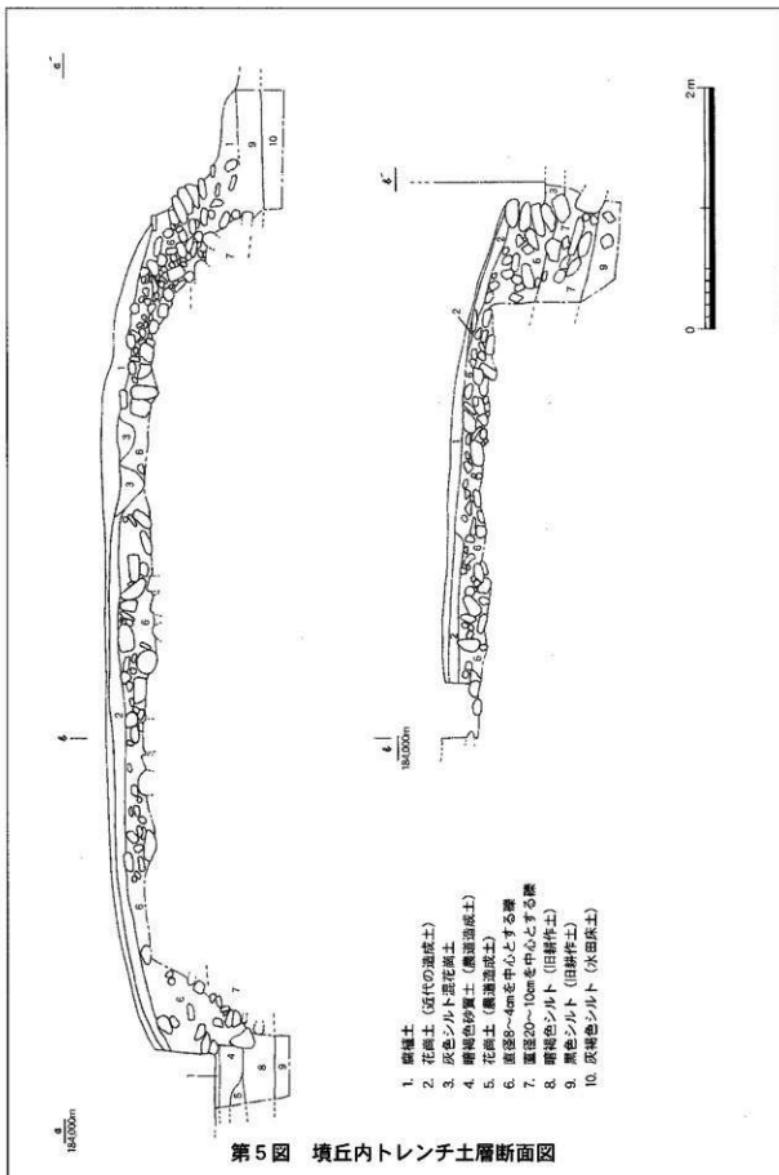
(3) 出土遺物

調査により破片数にして52点の遺物が出土した。遺物の種類は土師器・土師質土器などである。遺物は主に6層上面・6層中より出土した。

1は土師器の壺である。内面から外面中位にかけて乳白色の釉薬がかかる。2は高台付の土師器壺である。3はすり鉢である。口縁部外面に2条の沈線を巡らせている。

他に未図化であるが、土師質の三足土釜の脚部が出土している。遺物は中世～近世の所産と考えられることから、塚を構成している礫の上層（6層）は中世～近世段階に造営されたと考えら





第5図 墳丘内トレンチ土層断面図

れる。

また6層中より五輪塔の水輪、石塔の部材が出土している。(図版4-B・C参照)



第6図 出土遺物実測図

4.まとめ

今回の調査は保存目的の調査であったため、主体部の有無や確実な造成時期等の確認ができないかった。

発掘調査により、榊貸塚は周溝を持ち、大きさの異なる礫を2段階に盛り上げて造成された塚であることを確認した。上層の石積中から中世～近世の遺物が出土したことから、榊貸塚は中世に造成されたと考えられる。

中世～近世は、榊貸塚周辺に豪族の屋敷や山城が作られた時期であり、土器川周辺一帯の開墾が進んだと考えられる時期である。開墾の際に掘り出された石が塚上に集められ、そこで灯明皿・五輪塔などを用いて農耕に関する祭祀が行なわれ、現在に至ったと考えられ、榊貸塚は先人が土器川周辺を開拓した歴史を今に伝える文化財であるといえる。

参考文献

- 1986『琴南町誌』琴南町
- 1994「木下遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成6年度』香川県教育委員会
- 1995『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
- 2003『香川県中世城館跡詳細分布調査報告書』香川県教育委員会
- 2005『琴南町内遺跡発掘調査報告書 第1集 中寺庵寺跡 平成16年度』琴南町教育委員会
- 2006『琴南町内遺跡発掘調査報告書 第2集 中寺庵寺跡 平成17年度』琴南町教育委員会
- 2006「県営中山間地域総合整備事業（中讃南部地区）城山ほ場」「埋蔵文化財試掘調査報告X
II香川県内遺跡発掘調査」香川県教育委員会

図版 1



A) 梱貸塚遠景（東より）



B) 梱貸塚遠景（南東より）



C) 梱貸塚遠景（北より）

図版 2



A) 第1トレンチ疊検出状況（北より）



B) 第2トレンチ疊検出状況（西より）



C) 第1・2トレンチ疊検出状況（南より）

図版 3



A) 第1トレンチ土層断面（北西より）



B) 第2トレンチ土層断面（北東より）



C) 第1トレンチ北端土層断面（北西より）

図版 4



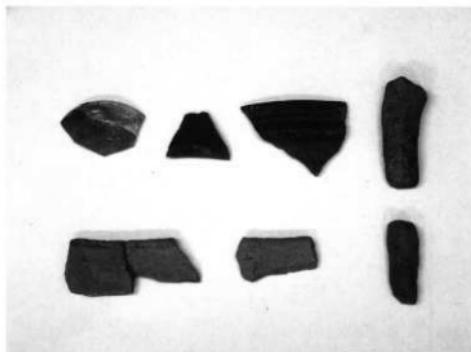
A) 第1トレーンチ南端土層断面（南西より）



B) 石塔部材出土状況（南西より）



C) 五輪塔水輪出土状況（南西より）



C) 梱貯塚上に残る五輪塔群（北西より）

報告書抄録

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第1集

椀 貸 塚

編集・発行：まんのう町教育委員会

印 刷：株式会社 弘栄社

発行年月日：平成18年9月11日